

平成二十九年 入 学 試 験 第一回午前 国 語

京 華 女 子 中 学 校

平成二十九年二月一日

□ 漢字に関する以下の問いに答えなさい。

※答えは解答用紙にはつきりと書きなさい。

問一 ①く⑥の——線部のカタカナをそれぞれ正確な漢字に直しなさい。

- ① 急なカイダンでつらい。 ② つらいキヨクメンを乗り越える。 ③ キンイツ的な指導が必要だ。
④ 城をキズくのは時間がかかる。 ⑤ 若者のイツピョウが今後は大切になる。 ⑥ キテイの書式に記入する。

問二 ①く⑥の——線部の漢字の読みをそれぞれひらがなで答えなさい。

- ① よく作戦を練る。 ② 相手の攻撃を防ぐ。 ③ 実力を発揮する。
④ 木造駅舎に思いをはせる。 ⑤ 彼の実力を認める。 ⑥ 率先して取り組む。

□ 次の文章を読んで後の問題に答えなさい。

Kさん、お手紙嬉しかった。この頃わからないことがいっぱいとおっしゃる。

今のあなたと同じ年齢の頃、私もわからないことだらけで、でも年をとったら、いろいろなことがわかるに違いないと思っていました。ところが、七〇代に入っても、この期待は、裏切られ続けています。わからないことは減るどころか、ますます増えていって、中でもこのところ、いっそう気になってきていることの一つは「自信」ということばの意味です。「自信がある」とか「ない」とかのあの「自信」、「自信を持ちなさい」と言うときのあの「自信」です。このことばに私は年を追うごとに違和感を覚え、距離を覚え、ここ一〇年余りついに自分とは無縁のことばと思うようになっていくのです。「自信をお持ちでしょう」と他人に言われるたびに、はて、自分に自信があったことなどあるだろうかと考え、少なくとも物心ついて一度だって自信があったことなどなかった、と繰り返し思い至った挙げ句のことです。

とはいっても、四〇年をこす教師生活の間には、若い人たちに向かって「自信を持ちなさい」と幾度かは言っています。でも、言ってしまった後のあのしらけた、むなしき気持ちを今も忘れません。

「自信」とはいったい何なのか。いよいよ気になった私は、つい先日、大小いく冊かの国語辞典を引いてみました。そんなに長い間気になっていたなら、なぜもっと早く引かなかったのか、と言われそうですね。言われてみれば、確かに、とは思うものの、煮詰まってからでなくては、この定義をしかと定義として受け取ることができなかったかもしれない、今は思います。これは言い訳かな？

それはともかく、『広辞苑』（岩波書店）や『大辞林』（三省堂）から始まって、「自信」ということばを引き始めた私は、最後にと残しておいたいちばんよく使う『新明解国語辞典』（三省堂）を引いて、思わず膝をたたいて笑いだしてしまいました。「そうか。まさにこれだ!!」、「よくぞ言ってくれた!」と思ったのです。そこにはこう記してありました。

「確かにうまくやることが出来る（た）であろうという自己評価」（第四版第一刷、一九八九年一月一〇日発行）。続いて、同じ辞典の第六版第一刷（二〇〇五年一月一〇日発行）を引けば「そのことをまちがいに、うまくやることが出来るという自己評価」と、さらにすっきりと明解になった定義が記されています。

角川書店発行の『必携国語辞典』も、『広辞苑』、『大辞林』より少しはましですが、でもこの定義にはかきません。『新明解』がすてきなところは、「自分の才能・価値を信ずること。自分自身を信ずる心」（『大辞林』）とか「自分の能力や価値を確信すること。自分の正しさを信じて疑わない心」（『広辞苑』）などにある「信じる」という曖昧なことばから全く自由になって「自己評価」ということばをきっぱりと打ち出しているところです。

「これでなぞが解けた!」と私は思いました。なぜこのことばが年々、自分には縁のないことばとして遠ざかっていったか。
a、自信なんて、あってもなくてもどうでもいい。いやむしろ邪魔かもしれない、と思うようになってきていたか。もつと言えば私は「『自信』なんてくそくらえ!」とさえ言いたくなってきていたのです。

私は長い教師生活の中で、自信が持てないと嘆く若い人たちに、いやというほど会ってきました。
b、自信満々の人たちにもまた。
c 外国語が周りの人よりうまく話せたり、いわゆる「容姿端麗」だったり。あるいはある分野の事情に他人より通じていたり。ところが自信が持てないという人だけでなく、自信満々キャンパスを闊歩する人も、実はいつも不安を抱えていることに、私は次第々に気付くようになりました。自信がない、という人も、何かが他人よりできるようになったとたん、自信を

手にするのですが、手にすればしたで、またそれをいつか失うのではないかという不安にどうやら若者たちは取り憑かれてしまうようなのです。いいえ、若い人たちだけではない。四〇代、五〇代になってもそういう不安を抱え続ける人に、私は大勢会ってきました。何かが、他人よりできれば自信が持てて、できなければ自信が持てない。その時の「自信」って何なのだろう。そんなに「自信」のあるなしで振り回されるなら、いつそ自信などと縁を切ってしまったてもいいのでは？ 私には、「自信」が人を幸福にするとは、次第に思えなくなってきました。

d、「自信」を持つのはいいこと。必要なこと。そういう声はいたるところで聞かれるのに、「自信」に疑義をはさむ声には、なかなか出会えません。それで、ようやく、いえ、ついに辞書を引く気になったのでした。

いや、「自己評価」には参りました。脱帽です。これで納得がきました。自信がある、と自ら言う人、あるいは自他共に認める人が、なぜ周囲の人々を幸福にするのを見たことがなく、**e** 目に入る風景といえ、周囲の人々を見下しているように感じられる場合がほとんどだったかということが。なぜ、そういう人にアグレッシブなものを常に感じざるを得なかったかということが。にもかかわらず、いえ、だからでしょうか、前にも記したようにそういう人々に常に不安の影を見てとらずにはいられなかったことが。そうです。「自己評価」に何の価値がありましょう。もちろん他人による評価にも、ですが。

学校というところは、いつも何かができるか、できないかで評価される場所です。社会もおおむね、そうです。いえ、できるか、できないかだけならまだいいのですが、そこに「他人と比べて」が入ります。他人と比べて少しでも何かが優れていると見るや、自信**II** **A** は高くなり、劣っていると感じると、自信はたちまちしほみ、**A** は低くなります。そんな自信って、持つ必要があるのでしょうか。そんなものに振り回されてしまうなんて、愚かとは思いませんか？

などと偉そうなことを言ってしまうましたが、実は私自身、この問題で振り回されそうになったことがあるのです。自信とはまるで縁なく生きてきたはずだったのに。

それは三〇代の初めに私の書いた評論がある「新人賞」をいただいた時でした。

【ア】私は周りの空気が変わったのを感じました。

【イ】あぶない、と思いました。

【ウ】驚いたことに、そのとたん、その分野の全国誌から原稿依頼が舞い込むようになりました。

【エ】それまでは、東京の研究会などに出て、誰からも声をかけられることなどなかったのに、先生と呼ばれる有名な人々からささ声かけられるようになりました。

【オ】このままいくと、外からの評価にやられてしまう、と思ったのです。

私は必死に自分に言い聞かせました。^⑤「受賞する前と後でおまえの書いたものが変わったわけではないのだよ」と。賞をいただくといったくまいと、書いたものは全く変わらず、ただただそこにあるのです。私自身だって、同じでした。受賞したからといって立派になどなるわけではない。私は書かずにいられたことを書いただけで、昨日と同じ自分がそこにいるだけでした。変わったのは私をとりまく外側の世界だったのです。それも全体からみればごく限られた人たちのさらにほんの一部が——もしかしたら、その人たちのどうでもいい一部だけが——針の先ほど変わっただけかもしれないのです。そんなものに自信を与えられ、奪われたり……。今思えば、私はあの時、ばかばかしい、といよいよはつきり思ったのかもしれない。その時かぎりの無責任な評価なんて少しも本質的なものじゃない。そんなものに、左右される「自信」もまた、と。

もしかしたら、たとえば学生の就職活動にも同じことが言えるかもしれませんね。何回も面接を受けたのに全部はねられた、生きていく自信がなくなった、と言って自殺する若者がかなりの数にのぼるとか。そんなことにあなたは自らの命を奪わせてはなりません。就職試験に落ちるのは、あなたのせいではないのですもの。採るほうは、あなたが命をかけるほどに命をかけてやっているわけではない。そもそも外からの評価はあなたの本質とは無関係で、落ちたからといって、いちいち責任を感じたり、自分を責めたりする必要はないのです。採用試験に受かったからと自信を手にし（**II** **A** を高め）、落ちたからと自信をなくす（**II** **A** を低める）としたら、あなた自身はいつどこにいますか？ そこまであなた自身を放棄してしまっているものでしょうか。それって同じ論理でいくなら、もし就職試験に受かったら、あなたは落ちた人を無能呼ばわりし、優越感に浸ることでしょう。なんとあさましく、なんと馬鹿げたことでしょう。

さて、長い間、若い人たちと多くの時を過ごしてきて、私が願ってきたこと。それは自信のあるなし、自己評価の高い低いほど

うでもいいけれど、——だってそれは時間のものさしで測っても、空間のものさしで測っても、一喜一憂すべきものではないのですから——まずは、自分自身を無条件に肯定できるようになってほしい、ということでした。あるがままの自分を好きになってほしいということでした。いえ、好きにまでならなくてもいい。まあ、仕方ない、こんな自分でも受け容れてやるか、というところまでくれば、しめたもの。そう願ってきました。それは、自分に見切りをつけることではありません。それどころか、まるごとの自分と向き合い、まるごとの自分を引き受けて、その自分をしっかり生きてやること。そうです。誰もかわりにあなたの人生を生きてやることはできないのですから、あなたが生きるしかない。自分がどれほど、おバカさんに見えても、あなた自身を生きてやってほしい。そう切に願います。私は既存の宗教のどれにも、まだ身をゆだねることができないでいる者ですが、それでも思うのです。もし神がいるとして、その神があなたを愛し、生きてごらんと願ってくださっているのに、自ら、その神の手を払いのけるのは傲慢ではないかと。

そうです。生きてごらん、と言ってくれているのです。宇宙は、世界は。人々が遠い昔から生み出してきたたくさんの絵も、音楽も、物語も。そこに自信なんてありません。そんなのは、あつたつて吹けば飛ぶようなものです。世界を信頼して自らをゆだねればいい。自分で自分を評価する必要もないし、外からの評価に一喜一憂する必要もない。繰り返しになりますが、自分をまるごと受け容れ、丁寧に、省エネしないで、つまりは手を抜かず、生きてやる、それしかないように思います。そのとき「自信」は何の意味もなくなるに違いありません。

どうか、お元気で。またひよいと遊びにきてください。待っています。

(清水真砂子『大人になるっておもしろい?』(岩波ジュニア新書)による)

問一 【ア】く【オ】は文章の順序が違っています。論理的に正しい順序に並べかえて、記号で答えなさい。ただし、【ア】は三番目にくるものとします。

問二 aくeにあてはまる最適の語を、それぞれ次のアくオの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同一の語を二度以上用いないこととします。

ア たとえば イ なぜ ウ でも エ 一方では オ むしろ

問三 四カ所の A には同じ語が入ります。適切な語を本文中から五字以内でぬき出しなさい。

問四 ——線部①「物心ついて」・③「脱帽」・⑧「一喜一憂」の本文中の意味として最適なものを、それぞれ次のアくオの中から選び、記号で答えなさい。

①「物心ついて」Ⅱ ア 物に愛着がわくようになって

イ 自信がついていろいろなことが分かるようになって

ウ 世の中のいろいろなことがなんとなく分かりはじめて

エ いろいろな物の名をおぼえはじめて

オ 自分に自信を持ちはじめて

③「脱帽」Ⅱ ア かなわないとして敬意を表すこと。

イ 自信を持つこと。

ウ 物ごとの意味が分かりはつとすること。

エ 申し訳ないと感じること。

⑧「一喜一憂」Ⅱ ア 状況が変わるたびに喜んだり心配したりすること。

イ 状況が変わっても感情が変わらないこと。

ウ その時の状況によって喜びや悲しみなどの感情に左右されないこと。

エ 喜びと悲しみは同じようなものだということ。

オ 一度喜んだら、必ず悲しんだり心配したりという感情に襲われること。

問五 ——線部②「不安」とありますが、具体的にどのような「不安」ですか。三十五字以内で説明しなさい。ただし、句読点・カギカッコなどの符号を含む場合は一字と数えます。

問六 — 線部④「そう」が指す内容を本文中から二十五字でぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。ただし、句読点・カギカッコなどの符号を含む場合は一字と数えます。

問七 — 線部⑤『受賞する前と後でおまえの書いたものが変わったわけではないのだよ』と。とありますが、「変わった」ものとは何ですか。本文中から十一字でぬき出しなさい。

問八 — 線部⑥「学生の就職活動にも同じことが言えるかもしれませんね」とはどういうことですか。最適なものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 無責任な評価に左右される「自信」と同じように、採る方の一方的な評価に左右される「就職活動」は、落ちるたびに自分に責任があると思う必要があるということ。

イ 無責任な評価に左右される「自信」と同じように、採る方の一方的な評価に左右される「就職活動」は、まわりの人を馬鹿にしてしまう傾向があるので注意をした方がよいということ。

ウ 無責任な評価に左右される「自信」と同じように、採る方の一方的な評価に左右される「就職活動」は、自分の本質とは関係がないということ。

エ 無責任な評価によって「自信」が与えられたり奪われたりするように、「就職活動」も受かるか落ちるか全て自分の問題なので気にする必要はないということ。

オ 無責任な評価によって「自信」が与えられたり奪われたりするように、「就職活動」は採る側の評価が非常に重要であるので、自分のできることは命をかけて取り組む必要があるということ。

問九 — 線部⑦「長い間、若い人たちと多くの時を過ごしてきたこと」とありますが、「願ってきたこと」に当てはまらないものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分を受け容れ、手を抜かずに、生きてやること。

イ まるごとの自分を引き受けて、その自分をしっかり生きてやること。

ウ あるがままの自分を好きになってほしいということ。

エ 自分のできることに見切りをつけながら、自分自身を生きていくこと。

オ 自分自身を無条件に肯定できるようになってほしいということ。

問十 次のア～クの中から本文の内容にあうものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア 自信を持っている人は、不安もなく、自信満々にキャンパスを闊歩できるぐらいアグレッシブな人が多い。

イ 筆者は、「自信」の定義として『必携国語辞典』や『広辞苑』に書かれた定義よりも、『新明解国語辞典』での定義に納得ができた。

ウ 他人よりできないという不安にとり憑かれてしまう若者は、自信を身につけていく必要がある。

エ 他人よりできるという自信を身につけることで人は幸福になることができる。

オ 就職試験に受かる人は、落ちた人を無能呼ばわりして、優越感に浸る傾向がある。

カ しつかりと生きるためには自己評価のあるなし、自己評価の高い低いは重要な問題である。

キ 自信を持つために自己評価をする必要はないが、外からの評価に一喜一憂する必要がある。

ク 自己評価や外部の評価を気にする必要はなく、自分をまるごと受け容れて、手を抜かずにその自分を生きることが大切である。

④	キズ く	①	カイ タン
⑤	イツ ピョ ウ	②	キョ ク メン
⑥	キ テ イ	③	キン イ ツ

④	①
駅 舎	練 る
⑤	②
認 める	防 ぐ
⑥	③
率 先	発 揮

```

graph TD
    A[ ] --> B[ ]
    B --> C[A]
    C --> D[ ]
    D --> E[ ]
  
```

a
b
c
d
e

	1970	1980	1990	2000	2010
Male	64	64	64	64	64
Female	64	64	64	64	64
Total	64	64	64	64	64

①
③
⑧

[illegible]

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	52
--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

[illegible]

1000

11

国語
出身校
私立市立区立
小学校
受験番号
氏名
得点